

給食センターたより



9月1日は『防災の日』です！



9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日にあたり、台風シーズンを迎える時期でもありあります。また昭和34(1959)年9月26日の「伊勢湾台風」によって戦後最大の被害(全半壊・流失家屋15万3893戸、浸水家屋36万3611戸、死者4700人、行方不明401人、傷者3万8917人)を被ったことがきっかけとなって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。



防災の日に合わせて災害食を提供します！



～2つの目的～

- ①災害食を食べる全員が災害食について理解を深め、学ぶため
(災害が起きた時に、災害食を食べたことがなく食べ方がわからないなどの混乱を招かないよう)
- ②給食センターに備蓄している災害食をローリングストックするため

※ローリングストックとは

「備える」「食べる」「食べた分を買い足す」を繰り返す、食料備蓄の方法のこと



地震などの自然災害はいつ起こるかわかりません。災害が起きた時、あるいは災害が起きそうな情報を事前に得た場合は、命を守る行動をすることと日頃の備蓄を必要とします。

給食センターでは、水やガスなどの水道光熱が必要不可欠で、これらのライフラインをたくさん利用しておいしい給食を作っています。災害が起きた時に、これらのライフラインが途絶え、物資が入ってこないことを想定し、普段に近い栄養も考えられた災害食というものを備蓄しています。

給食センターでは災害食として『救給カレー』を備蓄しています



『救給カレー』はレトルトパウチの袋にごはんとカレーが入っているので、開封後に備え付きのスプーンで軽く混ぜ、そのまま食べることができます。

水やガスなどのライフライン不要です。

アレルギー特定原材料等28品目不使用のため、食物アレルギーがある人でも安心して食べることができます。



おうちで救給カレーを食べた感想を家族に話してみたり、家に災害食があるかどうかを確認してみましょう☺

しもにたまちでは直近で、2019年10月の台風19号で災害を受けました。一部の町民は安全な場所に避難し、避難生活を過ごしました。その際、町で備蓄していた災害食が配布され活用されました。



お湯を入れるだけで食べることができるごはん

アルファ化米
ごはんの種類豊富



フタを開ければそのまま
食べることができるパン



袋から出してそのまま食べることができる

通常のものより、保存期間が長い

災害用のビスコ

これらの災害食は下仁田町のどこに備蓄されているか知っていますか？

【保健センター】

【下仁田小学校】



下仁田町では、保健センターや下仁田小学校などのように食料品などを備蓄するための防災倉庫を設置してある場所があります。

他にも…

旧馬山小学校 ・ 小坂社会体育館 ・ 荒船の湯 ・ 友愛館

青倉社会体育館 ・ 西牧防災広場 ・ 下仁田中学校

活性化センター ・ 道の駅 ・ 下仁田町役場では、

災害食だけでなく、毛布やマスクなどの生活必需品を建物の一角で管理し備蓄しています。

いざという時のために、覚えておいてください！



給食センター所長

災害は忘れた頃にやってきました。
まずは自宅の防災グッズを見直して準備しましょう！

下仁田町学校給食センター